

私とロータリー

寄稿

「ロータリークラブ」

は私には無縁のものと思
っていた。父の診療所を
継いで3年目に医師会な
らびにロータリーの大先
輩である故志貴彦人先生
から岡崎ロータリークラ
ブへ入会のお誘いいただ
いた。

私は岡崎で生まれ育つ
たというものの、ロータ
リーの例会に出席して
も、顔見知りの人はほと
んど無く、はじめの内は
楽しむよりもむしろ苦痛で

第2760地区拡大委員会委員長

杉浦 壽康 (上)



すらあった。それでも、
親睦委員長を仰せつかつ
たりするうちに、岡崎口
ロータリークラブの標語
「和やかにして風格ある
クラブ」を強く感じるよ
うになった。会員の皆様
は、正に標語通りの方々
で、私のような新米の委
員長にも快くご協力いた
だき、達成感を味わつこ
うできた。
その後、いろいろな委
員長を経験させていただ
いたが、極めつけは会長
時代である。村井忠さん
という素晴らしい幹事に
めぐり合い、円滑なクラ
ブ運営をすることができ
た。来、この「禁煙例会」は
歴代会長に引き継がれて
を務めさせていただき、
いる。その他、それまで、
多々の人との出会いと共
に世界を広げることがで
きた。ロータリーに入っ
ていなかったら、世間か
ら計画書を、第1例会
の会長方針に間に合わせ
ら隔離された小さな診療
所に満足する「医者の常識
は社会の非
常識」とい
う人間にな
っていたで

卒業のない人生修養道場

バ運営をすることができ
た。変ご苦労を掛ける破目に
私にとってロータリー

当時、社会では禁煙の
機運が始め、岡崎ロー
タリーでは他クラブに先
駆けて「例会場内禁煙」
の実施に踏み切った。以
を、さらに地区委員会
である」と言える。

その後、太田賢太郎が
別な理由のない限り『永
遠に卒業できない道場』
である」と言える。